

課題1： 人生の意味を考える

- ・ ヴィクトール・フランクル『夜と霧』(新版)を購入し、一冊精読しなさい。一般に、アマゾン(www.amazon.co.jp)の中古図書を購入すると割引率が多い。
- ・ 人間が生きるということの意味について、フランクルの考えを過不足なく、論理的、かつ正しい日本語で要約しなさい。
- ・ フランクルの考え方にしたがって、あなたの人生を具体的に変えなさい。どのように変えたか、どう行動したか、その理由は何か、あなたの変化と行動がもたらした結果と顛末をまとめなさい。
- ・ 提出方法:
 - 課題×切: 5月7日(水)午前6時。
 - メールにて、樋口(higuchi @ okinawa-u.ac.jp)まで送付のこと。
 - メール表題に、「幸福論」「提出者名(あなたの氏名)」を表記のこと。
 - 原則として、ファイルを添付せず、メールに直接原稿をコピー&ペーストしたものを送付のこと(多数のメールを私が確認しやすいため。画像を添付するなど、メールに直接ペーストしにくい場合などはこの限りではない。)
- ・ 本課題が不可であれば、単位を獲得をすることができない。



本書は、みずからユダヤ人としてアウシュヴィッツに囚われ、奇蹟的に生還した著者の「強制収容所における一心理学者の体験」(原題)である。1956年の初版刊行と同時にベストセラーになり、約40年を経たいまなお、つねに多くの新しい読者をえている。

この本は冷静な心理学者の眼でみられた、限界状況における人間の姿の記録である。被収容者たちはどうやって精神の平衡を保ち、または崩壊させてゆくのか。著者の思索は人間存在そのものにまで及ぶ。人間を解き明かすために、収容所という舞台を借りているとさえ思えるほど、その洞察は深遠にして哲学的である。そこには、人間の精神の高さと人間の善意への限りない信仰があふれている。

「生きることからなにを期待するかではなく、生きることがわたしたちからなにを期待しているかが問題」というような忘れがたい一節が光をおびている。本書の読後感は一手記のそれではなく、すぐれた文学や哲学書のものであろう。

(アマゾンの商品説明より抜粋)

2014年4月9日掲示